



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第4巻第
5号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第4巻第5号). 泌尿器科紀要 1958, 4(5): 306-306

ISSUE DATE:

1958-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111600>

RIGHT:

編集後記

日本医事新報の昭和33年2月22日号の時論欄に「大阪市の反省をもとむ」と題して同市民病院の谷村氏が一文を発表してられる。大阪市の条令或は役人、事務員らが市民病院の医者に対して全くひどい考え方や待遇をしていることを訴え、それにつれて医者の方も学問と医療に情熱を失っていることを述べてられる。まことに実状はその通りであろうと察せられ、医学の一端に連なる筆者としても情けない気がする。



それにしても普通ならばなかなか言いにくことを、一身の得失を顧みずに、何ものをも恐れずに、卒直に信ずるところを述べられたことに対して敬意を表したい。世の中には事なかれ主義や、自分の損になりそうなことは言わぬ流儀が多い。それでは当人は俗世的に出世したり或は得をすることはあろうけれども、世の中は良くはならぬ。やはり各人が信ずることをはつきりと主張することが世の中を良くするのである。このような立派な発言をする人を、医界人が黙つて見過ごしたり或は医界から何らの反響も起らぬようなことでは困る。うしろから続いて大いに応援せねばならぬ。



これは単に大阪市だけの問題ではなく、類似の事柄は至る所にある。或る紡績会社病院の勤務医から話を聞いたことがある。それは会社側が医者の本然の立場を理解して居らず、主に社員として考えているので、医者は会社の職員としての立場と医者としての立場との不一致に悩まされるところなのである。全くその通りであろう。医者が医者でないものに従属しているのである。その医者は会社に勤めてはいるが、やはり医者という任務の比重が大きく、従つて医界という広い立場の方に密接に身を置いてゆくべきである。



以上の問題は個人の医者ではどうともならぬ。根本的には現今日本の医療制度の欠陥に連なっている。この頃の医界、医政に関する論説を見聞すると、その殆んどすべてが医療制度の不備を衝いたものである。これに対しては小手先の処置ではなく、これらの錯誤と混乱を根底から立て直さねばならぬことが痛感せられる。

購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を附け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都府左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部